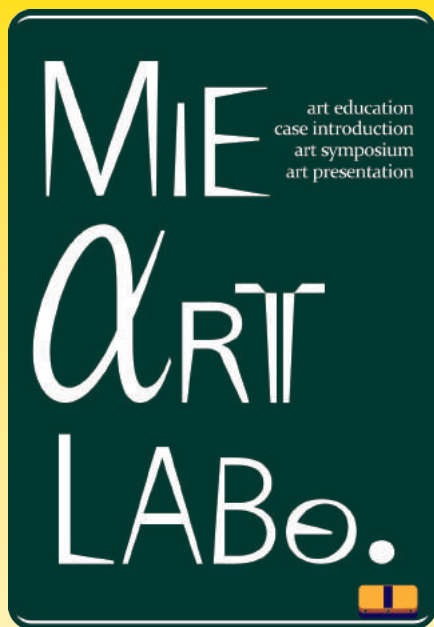




ミエ・アート・ラボ

「教育」や「アート」に関わるさまざまな立場のみなさんで“アート教育”の実践と展開について、ともに学びあい、つながりあうことを目的とした研修会です。
今年は「視点を変える」をテーマに、「福祉」「教育」「地域活性化」といった分野に対して、アートがその特性を活かし、どのように作用して、それぞれの課題を強みや個性へと変えていったのか。そのために必要な学びとは。
参加者のみなさんと一緒に“アートの持つ力”について考えます。

10:40~12:00 基調講演

手話通訳あり

演劇×特別支援教育

表現の世界に障害の壁はない ー演劇部15年間の実践からー

講師: 綿井朋子 奈良県立ろう学校演劇部 顧問 助言: 山田康彦 三重大学教育学部 教授



綿井朋子



山田康彦

奈良県立ろう学校高等部生徒3名による

手話パフォーマンス「Star Light」(ミエ・アート・ラボ 発表用バージョン)を上演(約15分)

13:00~15:00 【ワークショップ】事例に学ぶ ①、②のいずれかを選択受講/先着順

① 演劇×福祉 定員30名 「老いと演劇のワークショップ」

演じることを通して、介護する人・される人が共に気持ちよく過ごすためのちょっとした気づきを得るワークショップです。

講師: 菅原直樹 「老いと演劇」OiBokkeShi主宰・俳優・介護福祉士/岡山県奈義町アート・デザイン・ディレクター



菅原直樹

② 美術×障がい×地域活性化 定員40名 「何となくいい感じてどんな感じ?」

アール・ブリュットに関する事例発表と共にコラージュを使って「何となくいい感じ?」を体験します。

講師: 森 敏子 子ども絵画教室アトリエ エビ代表/亀山トリエンナーレ事務局長



森 敏子

15:15~17:00 テーマディスカッション

手話通訳あり

アート教育のこれから 2020年以降のアートシーンを地方から考える。

パネリスト: 綿井朋子、山田康彦、菅原直樹、森 敏子

コーディネーター: 吉野さつき 愛知大学文学部 教授

主催: 公益財団法人三重県文化振興事業団 後援: 三重県教育委員会

助成: 文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業)

独立行政法人日本芸術文化振興会



吉野さつき



©山羽宏樹

アート教育の
実践と
展開について
ともに学ぶ
研修会



©林原豊



©山羽宏樹



綿井 朋子 わたいともこ
奈良県立ろう学校勤務

手話や身体表現によるろう者の舞台表現に魅了され、2004年演劇部創部。奈良県高等学校演劇研究会に正式加盟。「表現の世界に障害の壁はない」をモットーに、今日に至るまで演劇創造に携わる。第2回(2015)、第4回(2017)全国高校生手話パフォーマンス甲子園優勝。高校演劇コンクール県大会最優秀賞。近畿大会出場(2006、2010、2014)



山田 康彦 やまだやすひこ
三重大学教育学部教授

三重大学教育学部教授。1954年生まれ。専門は、美術・芸術教育論。1977年から芸術教育の研究を始め、実践と理論をつなぐ研究を心がけている。「人間の文化的主体性の形成における芸術・芸術教育の役割と意義」(『障害者問題研究』No.175, 2018年11月)などの論文がある。



菅原 直樹 すがわらなおき
「老いと演劇」OiBokkeShi主宰
俳優、介護福祉士
岡山県奈義町アート・デザイン・ディレクター

平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。2012年より、家族と共に岡山に移住。介護と演劇の相性の良さを実感し、地域における介護と演劇のあり方を模索している。OiBokkeShi×三重県文化会館による3年間の「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクトが進行中。



森 敏子 もりとしこ
子ども絵画教室アトリエ エビ代表
亀山トリエンナーレ事務局長

1980年アトリエ エビを開講。知的障がいのある子どもたちと表現活動が続け、他の施設などでも指導しながらアール・ブリュットの可能性を追求している。2007年より亀山市で現代アートの芸術祭を企画運営。ギャラリーも開設し、アートによる街づくりを展開中。洋画家。国内外で個展、グループ展を開催。



吉野 さつき よしのさつき
愛知大学文学部
メディア芸術専攻教授

専門はアーツマネジメントとアーティストによるワークショップ。障害と芸術に関わる調査研究として日本財団パラリンピックサポートセンターと共同の「障がいの舞台芸術表現・鑑賞に関する実態調査報告書」「障がいの舞台芸術活動に関するケーススタディ調査」(2016年)がある。2017年度より厚生労働省の障害者芸術文化活動普及支援事業評価委員。

申込方法

- ① FAX・郵送・窓口でお申込みの方は「ミエ・アート・ラボ参加申込書」をご提出ください。

FAX:059-233-1155

- ② メールでお申込みの方は、下記申込書にある必要事項をお送りください。

E-mail:manabi-kouza@center-mie.or.jp

申込用紙は
こちらから
ダウンロード
できます。



ミエ・アート・ラボ参加申込書

締切:2019年1月11日(金)

お名前	(ふりがな)		お電話	
			FAX	
			E-mail	
ご住所	都道 府県	市町 村	所属 団体名	

- 「事例に学ぶ」(13:00~15:00)は選択制です。希望のWSに○をつけてください。

☐ ① 演劇×福祉	☐ ② 美術×障がい×地域活性化
----------------------------------	---

- 志望動機をご記入ください

- アート教育、教育福祉についての質問、手話通訳・要約筆記などの希望・要望などがあればご自由にお書きください。

※「基調講演」「テーマディスカッション」には手話通訳が付きます。

※要約筆記の利用、赤外線補聴装置(ホールのみ)などは開催日の1か月前までにご相談ください。(調整の結果、ご要望にお応えできない場合もございます。)

※一日通しでの参加が困難な場合はご連絡ください。